

令和2年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢商業高等学校

No. 1

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	評価・集計結果	後期の成果と課題、次年度へ向けた改善案
1 新学習指導要領の実施に向け特色ある教育課程の開発に努めるとともに、生徒の学習意欲を高める授業を実践し、確かな学力を身に付けさせ、表現する力・伝える力を育成する。	① 生徒の授業に取り組む姿勢を改善する事により、主体性を引き出し、学力の向上につなげる。	授業に主体的に取り組めたと感じる生徒の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価：B 生徒対象のアンケート結果 肯定的回答の割合 全学年 76% 1年 79% 2年 71% 3年 78%	前期の81%よりも肯定的回答が少なくなった。 来年度は、年間を通して全学年で80%以上となるよう、生徒が主体的に取り組むような授業改善を全教員で実践したい。
	② 自学自習の調べ学習、対話的な学びを通して知識を関連付け、より深く学習することが可能となる授業を推進する。	自学自習の調べ学習や対話を通して思考を深める授業を実践した教員の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価：B 教職員対象のアンケート結果 肯定的回答の割合 79%	昨年度後期、本年度前期共に81%であったが、微減となった。 調べ学習や対話的な学習をさせて終わりではなく、思考をより深める授業展開を、審査問題の再考も含めて工夫検討したい。
	③ 授業を中心に、学校生活全般を通じて、表現する力・伝える力を育成する。	授業の学習活動の中で「表現する力・伝える力が向上した」と感じる生徒の割合が、 A 70%以上である B 60%以上である C 50%以上である D 50%未満である	評価：A 生徒対象のアンケート結果 肯定的回答の割合 全学年 71% 1年 72% 2年 64% 3年 77%	前期と比較し、大きく改善しA評価となった。特に1年生の授業での改善度が高い(前回調査では63%)。 来年度は全学年で70%以上となるようさらに工夫を重ね、実践を継続したい。
	④ 各種検定試験の取組を通して学習意欲を高める。	3年次の全商検定1級3種目の取得者が、 A 160人以上である B 140人以上である C 120人以上である D 120人未満である	評価：D 106人	家庭学習の習慣が身につけていない。これまでのように出題パターンが決まっていたときは検定試験直前期に特別補習をすれば合格することができたが、近年は応用力がないと解けなくなってきている。毎日、課題を出す等、家庭学習の習慣を身につけていきたい。
	⑤ 新学習指導要領の趣旨をよく理解し、各教員が学校全体の教育活動を意識した自分なりの教育課程案をもって検討に臨む。	「新指導要領の趣旨をよく理解し、自分なりに新教育課程案を考えている」教員の割合が A 100%である B 85%以上である C 70%以上である D 70%未満である	評価：B 教職員対象のアンケート結果 肯定的回答の割合 89% 回答数53のうち あてはまる 14 大体あてはまる 33	令和4年度入学生から実施する新教育課程の編成に向け、後期からは検討委員会も立ち上がり、委員会を中心に各教科会でも検討を行っているところである。 よりよい教育課程の編成のため、今後も検討を進めていきたい。
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> さまざまな検定試験を学校で受験する機会があるが、中国語検定など、今まで実施していない検定試験も入れてみたらどうか。 生徒は資格を取得したくて入学しているので、資格取得への意欲や能力を維持向上できるような授業の工夫をお願いしたい。 		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針		<ul style="list-style-type: none"> 各科目に対する深い学びと、関係する資格取得に向けたスキルの双方を充足できるよう、一層の授業改善に努めてまいりたい。 		

令和2年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢商業高等学校

No. 2

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	評価・集計結果	後期の成果と課題、次年度へ向けた改善案
2 ビジネスマナー教育、実践教育、国際理解教育、おもてなし教育の更なる充実に取り組む。	① 相手の顔と目を見てさわやかな、相手に伝わる挨拶を日常的に実践し、社会に貢献できる生徒の育成に取り組む。	年間を通して相手の目を見たさわやかな気持ちのこもった挨拶ができたと感じる生徒の割合が、 A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	評価：B 生徒対象のアンケート結果 肯定的評価の割合 全学年 89% 1年 91% 2年 88% 3年 90%	評価Aの目標数値には届かなかったが、全学年で前期よりも数値の上昇が見られた。職員にも協力を促し組織的に取り組めるようになった。 今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、集会等で全体に伝えることができなかったため、生徒一人ひとりへの徹底という点で、指導強化を図りたい。
	② 生徒指導が主体となり、公安委員・生徒会執行部と協力しながら遅刻0の徹底を推進していく。	遅刻0の日が年間を通じて、 A 110日以上である B 90日以上である C 70日以上である D 70日未満である	評価：A (2月末日で111日)	新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けたが目標を達成することができた。 来年度も「時間厳守」の大切さを啓発していき、130日以上を目指せるように指導したい。
	③ マナー教育を含めた商業教育実践の貴重な場となっている金商デパートの運営に積極的に取り組む。	金商デパートにおいて、商業で学んだ知識や技術を生かせたと感じる生徒の割合が、 A 95%以上である B 90%以上である C 85%以上である D 85%未満である	/	今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により金商デパートは中止となった。 来年度実施の際は、経験者が3年生のみとなるため、商業で学んだ知識・技術(マナーなど)を全学年に指導する必要がある。
	④ 英語のコミュニケーション能力と活用力の向上に取り組む。	STEP英検準2級以上(または全商英検1級)を取得した人数が前年比で、 A 20%以上向上した B 10%以上向上した C 前年度と同等である。 D 前年度を下回った	評価：C R1年度→R2年度 21名 → 23名 (9.5%増)	10%に届かず評価Cとなった。ただし両検定共に上位級のみを比較すると、STEP2級は8名→3名、全商1級は8名→4名と大きく減となっており、実質的には評価Dに近いと思われる。 商業科が実施しているように、何らかの検定対策が必要である。
学校関係者評価委員会の評価		・オンライン化を含め、ビジネスの方法は直接の対面に頼らない新しいやり方が求められている。新時代に対応できる商業教育を期待したい。商業教育の最先端に行く金商であってほしい。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・対面販売実習の場としての意味が大きかった金商デパートを今後どのように変えていくのか、生徒と共に考えていきたい。		

令和2年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢商業高等学校

No. 3

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	評価・集計結果	後期の成果と課題、次年度へ向けた改善案
3 生徒の希望する進路実現へ向けて、各学年に応じた計画的なキャリア教育に取り組む。	① 就職希望者に対して、企業ならびに同窓生と連携を深め、各種ガイダンス機能の充実と希望企業への実践的な面接指導を実施し、進路実現を図る。	就職希望者において、ガイダンスや面接指導を通じて希望の職種・業種への進路実現を達成できたという生徒の割合が、 A 95%である B 90%以上である C 85%以上である D 85%未満である	評価：A 生徒対象のアンケート結果 95%	新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、企業人事担当者や卒業生による進路ガイダンスが中止となった分、企業調べや応募前見学、面接指導に力を入れ、進路実現に結び付けた。求人数は減少したが、希望する職種や業種は充足できていた。しかし来年度については、さらに求人数の減少が見込まれることから、事務職を中心に求人開拓に努めていくことが重要である。
	② 進学希望者に対して、補習やガイダンスの指導・働きかけを工夫、志望分野・志望校への進学意識を早期より高める。	進学希望者において、長期的な視点を持って受験勉強に取り組み、学力を向上させることができたと答えた生徒の割合が、 A 75%以上である B 70%以上である C 65%以上である D 65%未満である	評価：A 生徒対象のアンケート結果 肯定的回答の割合 全学年 81% 2年 70% 3年 91%	今年度は、調査書の書式変更、総合型選抜や学校推薦型選抜における「活動報告書」の提示など、3年生の進学希望者に対して多くの情報提供が必要な年であった。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で学校見学が中止となり、進学希望の生徒は不安を抱えていたと思われるが、休業中の「振り返りシート」の活用や、登校日と学校再開後に実施した多くのガイダンスを通して、早期に対応することができた。2年生には、難関大学の情報提供を2学期から個別に行い、進学意識を高めることができた。来年度も、早期の情報提供に努めたい。
	③ 1年生に対して進路ガイダンスを計画的に行い、進路実現に向けた取り組みを充実させる。	進路の実現に向けて、具体的な進路希望が設定できたと答えた生徒の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価：B 生徒対象のアンケート結果 肯定的回答の割合 71%	行事の精選が迫られるなか、進路説明会や分野別ガイダンスを実施することができ、コース選択を含め自分の進路を考えることができた。しかしまだ3割近くの生徒が具体的な進路を設定できていない。また、進路志望の決定と進路実現は別なので、今後も学習面の充実や資格取得の推進を図っていきたい。
学校関係者評価委員会の評価		・就職について、早期離職する生徒がいると聞いた。フォローをお願いしたい。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・ミスマッチが早期離職に結びつかないように、キャリア教育をより一層充実させると共に、情報や体験の場の提供に努めたい。		

令和2年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢商業高等学校

No. 4

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	評価・集計結果	後期の成果と課題、次年度へ向けた改善案
4 心身の健康と豊かな人間性の育成に向けて、部活動、特別活動等の更なる充実に取り組む。	① 運動部の県大会において、優勝を目指す。	県大会でベスト4以上の運動部が、 A 9部以上である B 8部である C 7部である D 7部未満である	評価：A 9部	代替または新人大会で、女子バレーボールと少林寺拳法が優勝した。 男子バレーボール、女子バスケットボール、ソフトボール、ハンドボール、バドミントン、ソフトテニス、野球は3位であった。
	② 文化部・商業部の県大会（総文・新人）において団体優勝のべ4競技以上を目指す。	県大会（総文および新人）で団体優勝をする競技が、 A のべ5競技以上である B のべ4競技以上である C のべ3競技である D のべ2競技以下である	評価：D 2競技	代替または新人大会で、電卓とワープロ競技が団体優勝を収めた。他の商業部やESS部は団体2位であった。 しかし、珠算、簿記、ESS、かるた競技では、個人1位の成績を収めているので、来年度に期待したい。
	③ 各種委員会・生徒会活動及びボランティア活動等の充実、活性化を目指す。	各種委員会・生徒会活動及びボランティア活動に自主的に取り組む生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価：B 生徒対象のアンケート結果 肯定的回答の割合 全学年 75% 1年 81% 2年 66% 3年 77%	昨年度を7%上回る結果になったものの、新型コロナウイルス感染症拡大のため地域の行事が減少し、ボランティア活動の機会自体が少なくなっていると思われる。 来年度には、部活動や委員会を中心に活性化していきたい。
	④ 校舎内の清掃をきちんと行い、節電・節水に努め、ゴミの分別をきちんと行う意識を全生徒が持ち、自主的に行動することを目指す。	清掃をきちんと行い、節電・節水に努め、ゴミの分別をしっかりとできる生徒の割合が、 A 98%以上である B 95%以上である C 90%以上である D 90%未満である	評価：B 生徒対象のアンケート結果 肯定的回答の割合 全学年 97% 1年 97% 2年 97% 3年 95%	清掃、ごみの分別、節電・節水においては概ね良好な状況であった。今後は、新型コロナウイルス感染症拡大下での衛生面の徹底を図りながら、校内美化に努めるよう指導していきたい。
	⑤ 「石川県いじめ防止基本方針」に則り、いじめを起さない学校づくりに努める。	いじめの未然防止に向け、意識的に行動をしている教員の割合が、 A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	評価：A 教職員対象のアンケート結果 肯定的回答の割合 100% 回答54人中 あてはまる 27人 大体あてはまる 27人	今後も、いろいろな意味で風通しのよい学校づくりに努め、いじめの早期発見と早期対応につなげたい。
5 教職員の多忙化改善に向けて、業務の改善に取り組む。	働き方改革の趣旨に則り、業務改善に努め、教職員の残業時間の解消に繋げる。	年間を平均して、1月当たり80時間以上を超える残業を行っている教員の人数が、 A 0人である B 1人である C 2人である D 3人以上いる	評価：D 教職員勤務時間調査より 残業80時間超 4～12月 7人	今年度は、県としての目標「80時間超の時間外勤務を0に」の達成を目指している年度であるが、目標達成には至らなかった。 業務分担の更なる平準化・適正化を目指してまいりたい。
学校関係者評価委員会の評価		・部活動の大会や行事が中止となったなか、なかなか頑張ったと言ってよいのではないかと。部活動を起爆剤とした学校の活性化に今後も期待している。地域の行事への協力も、来年度はぜひお願いしたい。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・気を緩めることなく感染防止に努めながら、今後も生徒のさまざまな活動を実施していきたい。		